

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501274		
法人名	社会福祉法人常新会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	広島県福山市曙町三丁目17番5号		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台27-17-101		
訪問調査日	平成27年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

通所サービスが当グループの他事業所へと移転し、外部との繋がりの減少が予想出来、様々なサークル活動や、地域住民との交流会を企画、実行してきた。その中で、曙小学校と、年間プログラムを作成し、継続した交流会が実施できたことは、スタッフ全員が地域に開かれた施設を目指し取り組んだ結果だと思われる。4つのユニットが隣人同士とし、連絡、協力体制を取り、助け合っている。ユニット合同での行事企画や、回想法といった勉強会など、入居者、スタッフ双方の交流を促進し、入居者は気軽に外に出ることや、スタッフも入居者全員の情報や、ケアの仕方が解るようになってきている。また、問題点も共有しやすくなり、未然に防ぐことや、同じ過ちを繰り返すことが少ない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は商業地に位置し、買い物・外食等の利便性が高い。法人の理念と社訓を玄関・各ユニットに掲げるとともに毎朝、ミーティング終了時に全員で唱和している。また、リーダー会議においても研修し、その内容について職員間で討議している。利用者の要望による外出や買い物など、外に出る機会を多く設けている。色々な場面でモデリングの手法を用いて利用者の活動範囲を広げる工夫もしている。医療面でのケアが手厚く、家族・利用者に安心感を与えている。管理者と職員の風通しが良く、気軽に意見を出し合える雰囲気を作られており、職員は生き生きと活動し利用者にも笑顔が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

(ユニット名 だんらん) [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の満足を第一とする」「地域・社会への奉仕と貢献」という法人理念の基、社訓を踏まえ、理念について考える勉強会を開催している。また、各事務所に理念を張り出し、呼称するようにしている。	理念を掲示するとともに、毎日の申し送り時に唱和している。勉強会で話し合い、チーム等でケアの振り返りを行い、情報を共有するとともに実践につなげている。理念にそわない言動があれば、管理者が職員に確認し指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や、飲食店が多数あり、外食等を計画し、率先し地域へと出て行く機会を作っている買い物に行く際は近所の方と会えば挨拶をしている。また町内会にも入り、地域内における行事にも参加している。	町内会に加入している。地域の文化祭、もちつきや盆踊りに参加したり、小学校との交流や中学校の職場体験などを受け入れており、日々地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所にて、サークル活動や、祭りを企画し、地域に開かれた施設となるよう取り組んでいる。また、曙小学校との交流会を企画し、お年寄りとのふれあいを通し、認知症の人への理解へと繋がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表と民生委員、地域・施設代表、包括支援センターで3ヶ月に1回話し合いを持っている。やすらぎの状況、取り組みを説明。地域との交流促進のために話し合い、助言を基に、ニーズに添うよう努めている。	おおむね3か月に1度、行事にあわせて開催している。内容は、事業所の状況、行事や地域交流についてである。	年6回の開催及び介護保険課や地域の他団体へも参加の声かけをするとともに、参加者の意見交換の場となるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との窓口は担当者を決め対応している。市町村からの意見は、現場スタッフへと伝達し、早期に対応できるようにしている。	主に、更新時などに連絡を密にとり、相談事などがあれば訪問や電話で聴くなど、協力関係を築いている。勉強会や通知等あれば、その都度職員へ情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や、寝室周囲も入居者の動きを制限することの無いよう、環境に配慮している。また、言葉、身体、薬物等による拘束も無いよう、勉強会を開催している。	月1回、虐待防止委員会で事例をもとにチェックリストを利用した勉強会を行った後、職員面談を行ってスキルアップに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、事例を基にした、勉強会を定期的に開催し、スタッフの理解を深めている。困難事例は、事業所全体で考え、虐待へと繋がることのないよう、対応策を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で、研修期間を設け、権利擁護に対する講義も含まれている。事業所にも資料をおき、いつでも学習できるよう整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を元に説明し、疑問点や不安な点も丁寧に説明し納得された上で契約している。解約時には、上司立ちあいの元お互い納得した上での解約にいたる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会で意見、要望等、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。面会時の様子も記録に残し、ミーティングで話し合い反映させている。意見箱を設置し、家族からの意見が表出しやすいようにしている。	家族の訪問時や家族会また、電話で意見や要望を聴いている。出された意見・要望は職員で検討した後、「一緒に外にでたい」という思いをケアプランに取り入れるなど運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティングを週2回開催し、法人全体での決定事項の伝達や、各ユニットの入居者やスタッフの様子把握、各取り組みの進行状況を確認している。	個人面談やミーティング等で意見や提案・要望を聴いている。出された意見や提案は業務内容・勤務状況に応じて、ユニット間で連携を図りながら運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を生かし、それぞれに仕事を任せたり、中心になり働いてもらう機会を作るようにしている。また各職員は目標を立て、それに向けて努力している。自己評価が出来、各自のアピールが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週、月曜日に勉強会を開催し、個人の能力に応じ、疾患に対する勉強や、症例報告を行っている。また、チーム毎の研究発表や、個人が興味のある研修を受講するスキップ制度など、多くの勉強機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や講演会への参加は、スタッフに情報提供し、参加を勧め、学会発表においては演題発表できるよう日々、努力している。また、法人内における活動にも参加し、自社への見学や研修を多く受け入れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くために、困っていること等は納得されるまで話を聞き、ご本人の要望と御家族が求められていることを入居時に把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメントをきちんと行い、在宅時における生活を十分に把握し、持続可能な能力を最大限活用し、同様の生活が維持できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思い、状況を確認しながら、しっかりと話しをしたうえで支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に本人と暮らしを共にする者同士の関係であるという気持ちを持ち、料理作りを教えていただいたり、不安、喜び等を支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の日々の状況などを伝え、アドバイスを頂き、家族と相談したり、情報交換を密にして、一緒に本人を支えていく人間関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住まれていた地域にドライブに出かけ、馴染みの場所(店など)への外出に出かけることや、日々の交流の中で、興味・関心を示す物を率先して行っている。	利用者の日々の発言を通して、自宅や馴染みの店へ出かけるなど関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒に料理作り、洗濯たたみ等、助け合いながら行っている。お茶の時間にも職員・入居者がゆっくり会話をする時間を持ち、気の合う者同士が過ごせるようにも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方の息子さんが、今でも月に2回ギターを弾いての歌会を実施してくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で何がしたいのか、どの様に生活していきたいのかを、日々の会話の中で聞き出し、把握に努めている。困難な場合は家族と共に本人本位にしっかり検討している。	利用者との普段の会話などから思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報をもとに表情やしぐさから、本人本位に検討して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・知人などの面会時、少しずつ把握する様に努めている。日常の会話の中で回想する事により、個々の生活歴などの情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動を記録に残している。また、一人ひとりの生活リズムを理解すると共に行動や小さい動作から感じ取り本人の全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見や要望、アイデアを聞き作成し、同意を得てサインを頂いている。アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。変化に応じて見直しも行っている。	担当職員が作った案をリーダー、ケアマネが確認した後、家族へ詳しく説明して了解を得ている。見直しは3か月毎で、状況変化等があればその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄等、及び日々の暮らしの様子や発言、エピソード等詳細に記録に日々残している。ミーティングにて、他職員とも情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット合同でのグループ回想法を行っている。スタッフの能力向上や、交流機会、安定を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	曙小学校と年間プログラムを作成し、学校側は授業の一環として、私たちは、地域に開かれた施設を目指し取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は決まっているが、本人や家族から要望があれば、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者の希望により、かかりつけ医に受診している。協力医の往診は月に1回(週に一度の医院も有)歯科については、利用者の状況に応じた往診がある。他科については職員が受診同行し、結果については家族と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師は、常に相談できる関係が出来ており、看護師と医療関係との連携も密に取れる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、主治医との相談の上、症状などにより受診先を決めている。入院によるレベル低下を防ぐために医師と相談しながら、なるべく早く退院出来るように面会にも頻繁に行き、状態を把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、家族、主治医、職員とで今後のことに関して話し合いの場を設けている。また、状態の変化に伴い、家族の気持ちの変化や思いを大切にしている。	利用開始時及び重度化した時に、指針をもとに出来ること・できないことを説明した上で家族・医師・職員・看護師がチームを組んで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各項目のマニュアルを作成し、急変時対応についての研修会も開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。避難経路の確認消火器の使用方法を学んでいる。	消防署の指導のもとで通報・消火・避難の訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人にあった対応をするため、勉強会やミーティングにて、職員間で情報を共有し、誇りやプライバシーを損ねないよう意識の向上に努めている。入浴、排泄等、羞恥心に配慮をして行っている。記録物などの取り扱いにも注意している。	利用者一人ひとりの生活歴に応じた声かけ等の工夫により、個人の尊厳を大切にしている。課題が生じた時には、「自分がされたらどう、感じるか」を管理者が職員に問いかけ、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方には、食べたいもの、飲みたいものを聞き、本人の嗜好に合ったもの提供するようにしている。意思表示が出来ない方には、本人の表情を見て、また御家族から本人の事を聞き対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出がしたいと訴えられた時は買い物や散歩に出かける。自ら午睡をとられる方、臥床が必要な方、眠たいと言われる時には臥床時間を設けるなどその人にあった生活が出来るように、体調に合わせて過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えも相談しながら本人の好みに合ったものを着れるようにしている。外出や行事がある時は、化粧をしたり、定期的に、また本人から訴えがあった時は、美容院でカットや毛染めもして頂き、身だしなみには注意をはらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人のできる事を把握し、メニュー決め、食事の準備(調理、味付け、盛り付け)、配膳など、本人のできる範囲でしていただくようにしている。入居者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事を出来るようにしている。	利用者も献立の作成や調理に加わったり、流しそうめんを共に楽しんでいる。食材は畑で取れた野菜や家族からの差し入れを利用することもある。会話を楽しみながら職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を日誌に記入し摂取量が把握できるようにしている。食事は偏りがないように肉、魚、野菜、果物等配慮しながら、おいしく食べて頂けるよう入居者と一緒にメニューを決めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を1週間に1回はポリドントにて洗浄している。食後は義歯を外して洗い、自らできる方は自分で洗って、歯磨きをもらい、介助が必要な方は口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間、パターン、を把握しトイレ誘導、声掛けをしている。尿意がない方、訴えることが出来ない方にも、排泄サインや、時間を見計らって、トイレ誘導しトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表をもとに、一人ひとりに応じた声かけを実施することで、多くの利用者が自立している。夜間も利用者に応じた個別の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう、バナナやオリゴ糖等、排便を促せるような食品や、運動をしてもらい、自然な排便が出来るように努めている。排便の確認を行い、記録に残し、チームミーティングにて各人に合った排便対策を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴できるように確認し準備している。入浴を嫌がる方には入浴前の散歩等気分転換や、時間帯を変えて声掛けをしている。楽しんで入浴できるように月初めには1階大浴場を使用し入浴を行っている。	週に2~3回(希望により毎日も可能)、利用者の状況に応じて昼前から夕食後にかけて実施している。毎月、第一週は大浴場を開放し、気の合った利用者同士で入浴している。拒む場合は、声かけの工夫等による対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず、臥床したいときにして頂けるようにしている。季節に合わせた寝具や、温度調整をし、安眠できるように努めている。日中も午睡をされる方は体調も考慮し、臥床しすぎないように注意し、活動を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、入居者ごとに処方箋のコピーを整理し、服薬状況を確認できるようにしている。新たに処方があった時は、処方内容を、入居者連絡ノート、Drノートに記載し、職員全員が確認し把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った役割、活動をして頂く様にしている。食事作りでは切る、煮る、味付け等区切り、出来る範囲での事をしてもらう。花が好きな方には生け花などサークル活動に参加してもらい、趣味、経験を活かし活躍できる場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出が出来るように支援している。本人の希望に合わせて、外食、買い物や、日常的に散歩等行っている。家族が外食に連れ出される事や、地域の行事や、催しごとへの参加も積極的に行っている。	日々の散歩や買い物、地域の夏祭りへの参加・希望による外食などの支援を積極的にしている。また、馴染みの場所や帰宅・墓参等の支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、自己管理することが難しいため、職員が管理している。財布を持たれている方には、小額を所持して頂き、財布の中身の確認を行っている。ほしいものがある時は、職員と一緒に買い物に行き、支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より要望があった時は電話を出来るようにしている。家族や、親しい人からの電話等あった時は本人と変わり話をしてもらっている。また、手紙を出される場合も、本人に書いて頂きやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事テーブルや、玄関、ベランダに花を生けたり、メダカの飼育や、夏はすだれを掛け温度調整をする等、季節感にも配慮し、過ごしやすい様に工夫をしている。食事時にはテレビを消し、日差しが強い時はブラインドを下ろし、不快な刺激にならないよう努めている。	広くて明るく、温度・光・音等が適切に管理されている。利用者が製作したフラワー・アレンジメントの成果物や行事の写真を飾るなど、季節を感じさせる工夫をしている。ソファの配置により、個別の空間を作ることで居心地よく過ごせる工夫等をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンテーブル以外でも居間や、ベランダ前にもテーブルを設置し、それぞれで過ごせるようにしている。自らの場所を持たれている方もおり、1人掛け、3人掛けソファの配置を工夫し仲間同士、または独りで過ごせる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた鏡台や、ダンス等持ってこられ使用されたり、御家族が、写真や人形等持ってこられ、居室に飾られている。また、テレビや、冷蔵庫を使用されている方もおり、自由に居室で過ごされている。	落ち着いた色調で洋室と和室がある。利用者の馴染んだ家具や写真・鉢植え等も持ち込まれ、その人らしさを感じることができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には、文字で場所を示したり、浴室前にのれんをかけ、視覚でわかりやすく掲示している。各居室にも表札を付けて、誰の居室かを示し、手すりや浴室の目印等、安全確保と自立への配慮をしている。		

自己評価および外部評価結果

(ユニット名 なごみ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の満足を第一とする」「地域・社会への奉仕と貢献」という法人理念の基、社訓を踏まえ、理念について考える勉強会を開催している。また、各事務所に理念を張り出し、呼称するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や、飲食店が多数あり、外食等を計画し、率先し地域へと出て行く機会を作っている買い物に行く際は近所の方と会えば挨拶をしている。また町内会にも入り、地域内における行事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所にて、サークル活動や、祭りを企画し、地域に開かれた施設となるよう取り組んでいる。また、曙小学校との交流会を企画し、お年寄りとのふれあいを通し、認知症の人への理解へと繋がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表と民生委員、地域・施設代表、包括支援センターで3ヶ月に1回話し合いを持っている。やすらぎの状況、取り組みを説明。地域との交流促進のために話し合い、助言を基に、ニーズに添うよう勤めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との窓口は担当者を決め対応している。市町村からの意見は、現場スタッフへと伝達し、早期に対応できるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や、寝室周囲も入居者の動きを制限することの無いよう、環境に配慮している。また、言葉、身体、薬物等による拘束も無いよう、勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、事例を基にした、勉強会を定期的に開催し、スタッフの理解を深めている。困難事例は、事業所全体で考え、虐待へと繋がることのないよう、対応策を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で、研修期間を設け、権利擁護に対する講義も含まれている。事業所にも資料をおき、いつでも学習できるよう整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を元に説明し、疑問点や不安な点も丁寧に説明し納得された上で契約している。解約時には、上司立ちあいの元お互い納得した上での解約にいたる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会など日々の生活中で話し合える機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置し、苦情処理委員会を通して、改善できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティングを月2回開催し、法人全体での決定事項の伝達や、各ユニットの入居者やスタッフの様子把握、各取り組みの進行状況を確認している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を生かし、それぞれに仕事を任せたり、中心になり働いてもらう機会を作るようにしている。また各職員は目標を立て、それに向けて努力している。自己評価が出来、各自のアピールが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週、月曜日に勉強会を開催し、個人の能力に応じ、疾患に対する勉強や、症例報告を行っている。また、チーム毎の研究発表や、個人が興味のある研修を受講するスキップ制度など、多くの勉強機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や講演会への参加は、スタッフに情報提供し、参加を勧め、学会発表においては演題発表できるよう日々、努力している。また、法人内における活動にも参加し、自社への見学や研修を多く受け入れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くために、困っていること等は納得されるまで話を聞き、ご本人の要望と御家族が求められていることを入居時に把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメントをきちんと行い、在宅時における生活を十分に把握し、持続可能な能力を最大限活用し、同様の生活が維持できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思い、状況や状態を確認しながら対応を検討している。また、判断できない場合は、チームミーティング、リーダーミーティングなどを通し、相談するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中において、職員は本人と暮らしを共にする関係であるという気持ちを持ち、慣わしや食事など知らないことを教り、日々の生活の中で実施するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月送る通信で日々の様子を伝えている。また、家族会などを通して家族と相談や意見交換をしたり、一緒に過ごされる時間をもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰ったり家族と外出をしたり友人、知人、親戚などの面会も自由にできるようになっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の輪の中に職員も入りアクトや食事作りなどの家事活動やそれぞれの入居者の出来るところを分担してもらいコミュニケーションを図りながら、入居者同士が関われるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を電話や面会等で伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを図りながら会話や反応などから得られた情報、気づきなどを記録に残し、思いや希望、意向の把握に努めている。聞くことが困難な方には、家族の面会時に聞きながら把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時や家族会などで本人の生活歴など話を聞き、教えてもらった情報や記録に残したものは職員同士で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の1日ごとの生活の様子がわかる記録用紙に記入し把握に努めている。また、体調不良などはドクターノートに記入し全員に情報が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望など、取り入れていけるように努めている。また、ミーティングなどで職員間で話し、プラン作成後、本人、家族を交えて話をする機会を設けるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2週間に一度のチームミーティングで情報提供している。また、家族情報は家族ノート、スタッフ間の連絡は連絡ノート、医療面はドクターノートに記入し、カンファレンス、ケアプラン作成などで活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々要望などに少しでも答えられるようにミーティングなどで意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	曙小学校と年間プログラムを作成し、学校側は授業の一環として、私たちは、地域に開かれた施設を目指し取り組んでいる。入居者の楽しみとして、希望者はボランティアの方にフラワーアレンジメントを教わっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が週に1回往診に来られ、健康状態など随時主治医から家族に伝える。また、家族からの希望があれば適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師は、常に相談できる関係が出来ており、看護師と医療関係との連携も密に取れる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、主治医との相談の上、症状などにより受診先を決めている。入院によるレベル低下を防ぐために医師と相談しながら、なるべく早く退院出来るように面会にも頻繁に行き、状態を把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、家族、主治医、職員とで今後のことに関して話し合いの場を設けている。また、状態の変化に伴い、家族の気持ちの変化や思いを大切にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、勉強会やミーティングなどで、確認するようにしている。また、急変時マニュアルを作成し、他ユニットとの連携にも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。避難経路の確認消火器の使用方法を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを損ねることがないように、ミーティングなどで対応を振り返るようにしている。また、言葉使いや、個人情報の取り扱いにも十分注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望、自己決定できるよう会話の中から問いかけてみたり、広告、テレビなどを見ながら、興味のあるものを引き出し対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者との会話を大切にしたいか、どこか行きたい場所はないか聞くように努めている。また、体調や様子に合わせて日々過ごしていただけるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	くし、歯ブラシなど利用者が使いやすいように環境設定を行い一人ひとりにあった身だしなみの声かけなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者と職員と一緒に準備をするように心がけ、下ごしらえ、調理、味付け、盛り付け、下膳、片付けの中で出来るところを各入居者で分担しながら一緒にを行い、入居者、職員でテーブルを囲み食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量など日々の記録に残し、摂取量など把握できるようにしている。栄養や水分量が偏らないように食事を提供するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがいができる利用者は、各自行ってもらい職員が仕上げなどのチェックを行っている。義歯は、週に1回消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ミーティングで話し合い、排泄パターンやサインなどの把握に努め、尿意、便意を訴えることができない入居者に対しても何らかのサインが見つけられるように観察し、誘導できるよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、食物繊維の多い食事を提供したり、水分摂取も水分量や牛乳やココアなどを提供するように心掛けている。各入居者の便が出やすい時間などの情報もミーティングで話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の取り決めは無くいつでも入られるようにしている。入浴できない場合は、清拭などに対応する場合もある。入浴の拒否のある利用者に対しては施設内の大浴場で入浴するなどの工夫も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを観察しながら、そのときに応じた対応を行っている。また、入眠時間も各々違うので、いつでも臥床できるように一人ひとりの表情や行動を観察し、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりが服用されている薬の薬情報をドクターノートに入れて各職員が把握できるようにしている。また、薬が変更になったときは、その都度、ドクターノートに記入し職員同士で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴は、本人や家族に聞きとりをし、記録に残しミーティングで共有している。職歴より特技の裁縫を生かし足拭きや雑巾なども縫ってもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のゴミ捨てを入居者と一緒に行い、施設付近の散歩などを行っている。近くのスーパーに散歩を兼ね、買い物に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の支払いができる利用者にはなるべく自分で行ってもらっている。また、お金を自分で持ちたいと希望される方については、小額のお小遣いのみ本人に持ってもらい、お小遣いの所在の確認を行い申し送りなどで職員に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡を希望される利用者には家族と電話で話ができるようにしている。手紙は本人宛てに来ることがあるが、やり取りまではできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行ったり、利用者が作られた作品や皆で外出したときの写真を飾っている。また、光が射すときにはカーテンやブラインドで調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集まって、テレビを見ながら過ごせることができるソファーや一人でも過ごすことができる場所も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人・家族と相談しながら、今まで家で使っていた馴染みの物を持って来ていただいたり、家族の写真を飾ったりして落ち着いて過ごせるように工夫している。また、本人と話をしながら、居室の配置を決めたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方が、少しでも一人で歩けるように、居室の家具の配置を考え、ソファーや椅子等をホール内に配置して休憩できるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

(ユニット名 つどい)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の満足を第一とする」「地域・社会への奉仕と貢献」という法人理念の基、社訓を踏まえ、理念について考える勉強会を開催している。また、各事務所に理念を張り出し、呼称するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や、飲食店が多数あり、外食等を計画し、率先し地域へと出て行く機会を作っている。買い物に行く際は近所の方と会えば挨拶をしている。また町内会にも入り、地域内における行事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所にて、サークル活動や、祭りを企画し、地域に開かれた施設となるよう取り組んでいる。また、曙小学校との交流会を企画し、お年寄りとのふれあいを通し、認知症の人への理解へと繋がるよう勤めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表と民生委員、地域・施設代表、包括支援センターで3ヶ月に1回話し合いを持っている。やすらぎの状況、取り組みを説明。地域との交流促進のために話し合い、助言を基に、ニーズに添うよう勤めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との窓口は担当者を決め対応している。市町村からの意見は、現場スタッフへと伝達し、早期に対応できるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や、寝室周囲も入居者の動きを制限することの無いよう、環境に配慮している。また、言葉、身体、薬物等による拘束も無いよう、勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、事例を基にした、勉強会を定期的開催し、スタッフの理解を深めている。困難事例は、事業所全体で考え、虐待へと繋がることの無いよう、対応策を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で、研修期間を設けており、権利擁護に対する講義も含まれている。事業所にも資料をおき、いつでも学習できるよう整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を元に説明し、疑問点や不安な点も丁寧に説明し納得された上で契約している。解約時には、上司も立会い、お互い納得した上での解約に至る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会で意見、要望等、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。面会時の様子も記録に残し、ミーティングで話し合い、反映させている。意見箱を設置し、家族からの意見が表出しやすいようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティングを月2回開催し、法人全体での決定事項の伝達や、各ユニットの入居者やスタッフの様子把握、各取り組みの進行状況を確認している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を生かし、それぞれに仕事を任せたり、中心になり働いてもらう機会を作るようにしている。また各職員は目標を立て、それに向けて努力している。自己評価が出来、各自のアピールが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週、月曜日に早朝勉強会を開催し、個人の能力に応じ、疾患に対する勉強や、症例報告を行っている。また、チーム毎の研究発表や、個人が興味のある研修を受講するスキップ制度など、多くの勉強機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や講演会への参加は、スタッフに情報提供し、参加を勧め、学会発表においては演題発表できるよう日々、努力している。また、法人内における活動にも参加し、自社への見学や研修を多く受け入れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くために、困っていること等は納得されるまで話を聞き、ご本人の要望と御家族が求められていることを入居時に把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメントをきちんと行い、在宅時における生活を十分に把握し、持続可能な能力を最大限活用し、同様の生活が維持できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思い、状況を確認しながら、しっかりと話しを行ったうえで支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に役割を持ってもらえるよう、家事活動などで入居者の意欲を尊重し、意見や、やり方を聞いて活躍の場をつくり、見守りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から入居者の以前の様子を聞いたり、日頃の様子を伝え、また困ったことや問題が起きた際は、家族に報告、相談し、意見を聞き、入居者との時間を作り可能な限り支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への電話での連絡、家に帰る、家族との外出などの支援をし、また知人、友人、親戚などの面会も自由に行えるようにして、人間関係を大切にするよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や、アクティビティー、家事活動など、職員も一緒に行い、入居者同士で関わりが持てるよう周りを巻き込んで行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に転院、あるいは転居した入居者に対しては、訪問や電話などで連絡を取り、家族に対しても、相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向が伝えられる入居者には、本人の思いや希望を確認し、伝えられない入居者には、これまでの生活や、現生活での反応の良いものを探そう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族から本人の生活歴を聞き、また面会に来られた第三者からも以前の様子などを聞くことで、GHの生活に生かせるようにしている。入居後も、生活で反応の良いものを職員同士でもカンファレンスで共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のADLや体力、精神状態など職員同士で情報を共有して把握し、本人のリズム、ペースを大切に過ごしてもらえよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2週間に1回、カンファレンスを行い、職員同士で入居者の状況を情報交換し、入居者の日々の生活から本人に合ったケア目標を立て、また家族の意向も取り入れたものにするよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに、日々の記録を、状態だけでなく、行動、ケアへの反応、それに対する職員の対応、気づきを詳しく記録している。また、個別に水分摂取状況など記録に残し、本人の嗜好、飲みやすい容器などの把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内に託児所を併設しているので、季節ごとの行事を一緒に行っている。1Fの大浴槽で他入居者と一緒の入浴や、畑でのユニット交流も行っている。やすらぎ全体での行事を行ない、他の家との交流を図れる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、ボランティアでフラワーアレンジメント教室を行なっていただき多数の入居者が参加している。チャレンジウィークなど学生との交流や、学生がボランティアで掃除や出し物をしてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が決まっており、毎週往診に来ていただいている。本人、家族にも情報提供をきちんと行い、要望も踏まえうえて適切な医療を受けられるように、連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子は細かく報告し、指示内容も記録に残し、スタッフ全員に伝達している。医療行為が必要な際は、随時、訪問していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を重ね、入居者の様子を確認し繋がりを大切にしている。また、医療機関と家族・職員が情報共有を行い早期退院に向け努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、主治医も交じえ、今後の方針の確認を行いグループホームにて可能な対応を説明し、家族の意見を聞いた上で本人の支援に取り組むよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各項目のマニュアルを作成し、急変時対応についての研修会も開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。避難経路の確認消火器の使用方法を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の特性を理解し、合わせた声掛けを行っている。入浴、排泄等の介助の際はプライバシーに十分配慮することや、記録物といった個人情報の取り扱いにも注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり、落ち着いた空間で関われるように言葉かけや、環境にも配慮し、入居者の思いや考えが何なのか探り、入居者の要望を見つけ、叶えるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントをきちんと行い、本人の生活リズムに合わせて生活してもらっている。生活歴の中から、入居者の、興味関心を探り、生活を送る上での楽しみに繋げている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整容は必ず行い、生活史に応じ、化粧品を丁寧に行っていた方であれば、在宅にて使用していた馴染みの道具を持ってきてもらい、自分でできるよう促したり、意識付けを行っている。また、必要であれば本人に選んでもらい買い物を行うといった一連の行程を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、何ができて何ができないのか入居者一人一人アセスメントし、能力の把握に努め、声かけや、モデリングといった技術、用具についても工夫し参加へ繋げている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活歴や家族から、本人の好むもの嫌いなものなどの情報を聞き、食事量、水分量を把握し、一人一人に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。夕食後は、義歯を外してもらう様にしている。なるべく、本人で行うことが出来るよう支援しているが、自分でできない入居者や不十分であれば職員確認し行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、排泄パターンを調べることや、排泄時におけるサインを見つけ、トイレでの排泄が出来るよう支援している。また、チェック表から可能な限り、布パンツでの生活を実践している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に配慮すると共に、運動機会も率先して作っている。下剤の服用は可能な限り抑えることが出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間等、ご本人の希望を聞いた上で入浴をしてもらっている。拒否のある方へも声かけの工夫で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、在宅からの生活が持続できるよう、生活習慣を把握し、合わせることが出来るよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理しており、服薬時は誤薬がないよう、職員同士で確認をしながら行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの生活歴や本人の生活の中から、意欲的に行えるような役割や趣味を生活にとり入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の訴えに寄り添い外出の機会を作っている。本人のニーズに沿った様々個別・集団アクティビティを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の訴えがあれば、本人持ちの財布を持って好きなものを買うように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えを尊重し、職員がサポートしつつ、自由に行なえるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のものを飾り、空間、視覚からも生活にゆとりを感じていただけるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、多人数で過ごせるようソファの配置をしたり、少人数で過ごせる窓際の場所や一人ですぐす個別の空間も作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや棚を持ってきておられる方や、入居前の趣味の作品などを飾られている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなる方には、居室のドアにわかりやすく目印をつけることや車いすが十分に動けるだけのスペースの確保をしている。		

自己評価および外部評価結果

(ユニット名 かたらい) [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の満足を第一とする」「地域・社会への奉仕と貢献」という法人理念の基、社訓を踏まえ、理念について考える勉強会を開催している。また、各事務所に理念を張り出し、呼称するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や、飲食店が多数あり、外食等を計画し、率先し地域へと出て行く機会を作っている買い物に行く際は近所の方と会えば挨拶をしている。また町内会にも入り、地域内における行事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所にて、サークル活動や、祭りを企画し、地域に開かれた施設となるよう取り組んでいる。また、曙小学校との交流会を企画し、お年寄りとのふれあいを通し、認知症の人への理解へと繋がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表と地域代表と施設代表で話し合いを持っている。やすらぎの状況、取り組みを説明し、地域との交流促進のため、話し合いを持ち意見も頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との窓口は担当者を決め対応している。市町村からの意見は、現場スタッフへと伝達し、早期に対応できるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や、寝室周囲も入居者の動きを制限することの無いよう、環境に配慮している。また、言葉、身体、薬物等による拘束も無いよう、勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、事例を基にした、勉強会を定期的開催し、スタッフの理解を深めている。困難事例は、事業所全体で考え、虐待へと繋がることのないよう、対応策を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で、研修期間を設け、権利擁護に対する講義も含まれている。事業所にも資料をおき、いつでも学習できるよう整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者と重要事項説明書をもとに、本人、家族に説明し疑問点や、不安な点があれば丁寧に説明し、納得された上で契約にいたるようにしている。 解約時には、上司立ち合いのもと、お互いが納得したうえでの解約にいたるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会で意見、要望等、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。面会時の様子も記録に残し、ミーティングで話し合い反映させている。意見箱を設置し、家族からの意見が表出しやすいようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティングを月2回開催し、法人全体での決定事項の伝達や、各ユニットの入居者やスタッフの様子把握、各取り組みの進行状況を確認している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を生かし、それぞれに仕事を任せたり、中心になり働いてもらう機会を作るようにしている。また各職員は目標を立て、それに向けて努力している。自己評価が出来、各自のアピールが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週、月曜日に勉強会を開催し、個人の能力に応じ、疾患に対する勉強や、症例報告を行っている。また、チーム毎の研究発表や、個人が興味のある研修を受講するスキップ制度など、多くの勉強機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や講演会への参加は、スタッフに情報提供し、参加を勧め、学会発表においては演題発表できるよう日々、努力している。また、法人内における活動にも参加し、自社への見学や研修を多く受け入れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くために、困っていること等は納得されるまで話を聞き、ご本人の要望と御家族が求められていることを入居時に把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメントをきちんと行い、在宅時における生活を十分に把握し、持続可能な能力を最大限活用し、同様の生活が維持できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思い、状況を確認しながら、しっかりと話しをしたうえで支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に本人と暮らしを共にする者同士の関係であるという気持ちを持ち、料理作りを教えていただいたり、不安、喜び等を支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙、電話などで現在の状況を伝え、要望や今後どのようにしていくかについても話し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他ユニットに知人がおられる場合は、一緒に過ごす時間を設けている。 また、馴染のある場所に出向いたり支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイムやレクリエーション、家事活動と一緒に行うことで共に過ごす時間を作り、関わり合いを持てるように働きかけている。利用者同士で話が噛み合わないことがある場合は、職員が間に入りより円滑に関わりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院、転居等があった場合でも、いつでもその後の様子を電話などで伺うことが出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いが伝えることが出来る方には、要望を聞くようにして話をしている。言えない方には、本人の反応また家族に相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時に本人、家族から生活歴を聞いたりして情報を得るようにしている。記録に残し情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分の思いを言える方には、直接話をして聞いている。難しい方には、表情、行動など観察、記録に残し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日々の行動、発言などを大切に、家族、職員で話をしてプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ライフチャートの細かな記録、申し送りや連絡帳などの記録を共有したり、ミーティングを行い、情報共有に努めている。そこから見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他ユニットなどと計画して、その時の状況や要望に応じて、交流する場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	曙小学校と年間プログラムを作成し、学校側は授業の一環として、私たちは、地域に開かれた施設を目指し取り組んでいる。行事の際には、地域の方がボランティアで手伝って下さったり、交番には緊急時のための協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院、主治医は決まっている。家族からの要望がある場合は、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調変化や気付きなどは受診時に報告している。また、医療行為が必要な場合の処置などお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報交換や連携に努めている。面会時になどにも情報交換できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、職員と連携をとりながら変化があればその都度話し合いを行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアルを作り、職員が対応できるよう話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。避難経路の確認消火器の使用方法を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人にあつた対応をするため、勉強会やミーティングにて、職員間で情報を共有し、誇りやプライバシーを損ねないよう意識の向上に努めている。入浴、排泄等、羞恥心に配慮をして行っている。記録物などの取り扱いにも注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいか、食べたいのか聞いたり、テレビ、広告などからいくつかの選択肢から選んでもらっている。意思表示が出来ない方には、本人の表情を見て、また御家族から本人の事を聞き対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望に沿った支援を心がけ、体調に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、好みのおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にメニューを決め、料理作りを行い、作り方を教わりながら行っている。食べやすいように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みに合わせ、量など調整して提供している。 食事・水分摂取に関しては、チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所で歯磨きしてもらおうよう声かけしている。 磨き残しがないか確認し介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを見ながら状況に応じて声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ココア、オリゴ糖などで排便を促している。適度に運動を行ったり、腹部をマッサージするなど対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温度調整や入浴剤を使用しリラックスできるよう努めている。 時間は早く入りたい人や寝る前がいい人といるので、決まっていない。入浴出来ない場合は、清拭や陰部洗浄を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一緒にテレビを観たり、温かい飲み物を飲みながら話をしたり、一人ひとりが安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局でもらう薬の説明書をDrノートに挟み、情報共有している。服薬は職員が管理し、誤薬や飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごとを披露できるようにしている。気分転換に外出や外食に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って外出できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人用の財布を用意し、安心感を持ってもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やキッチンに入居者が生けた花、植物を置き、季節感を取り入れている。カーテンやブラインドで日差しの調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるよう机や椅子をおき工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、自宅で使っていた家具や写真などを飾り、その人らしい部屋にし、落ち着いて過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、浴室などには手すりがあり、手すりを持ち移動できるようになっている。手すりを活かしてできるだけ自分で行ってもらえるよう心がけている。		